令和元年度　事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	161　姉妹・友好都市交流事業		
戦略プラン		担当部課係名	市民部国際交流室
総合戦略		新規・継続	継続
		事業分類	任意的事務
予算科目	01-030110-19　国際化の推進に要する経費	市民参加	■　共有、理解
要求区分	事業期間		□　企画・立案、計画
個別計画	つくば市グローバル化基本指針		□　実行
			□　評価・検証
根拠法令		事業体制	職員のみ
		市長公約	

概要

事業の目的	事業の概要
教育や文化、経済交流など、姉妹・友好都市を含む海外都市との交流を推進することで、つくば市の特性をいかした事業展開を図る。	・教育、文化、経済面で交流する。 ・訪問団の派遣、受入れを行う。 ・相互の行政視察を行う。

評価

事業計画	活動実績
７月　グルノーブル市の映画祭での上映 ８月　韓国テジョン市との青少年交流 11月　中国ハイテクフェアへの出展 秋頃　米国３市（ミルピタス市、アーバイン市、ケンブリッジ市）の訪問 秋頃　ミルピタス市との高校生交互交流 通年　姉妹都市、友好都市、その他の都市からの視察受入れ	・深セン市　5/13～15スマートシティフォーラム出席、5/26～27副市長来市、11/12～14ハイテクフェア視察 ・7/2～6グルノーブル市短編映画祭につくッペグランプリ作品の上映及び監督の出席 ・6/27ケンブリッジ市高校生・引率者21名来市 11/17～23ケンブリッジ市・アーバイン市訪問 ・5/14、7/2韓国テジョン市教育庁（職員・先生）27名来市 ・それ他の都市からの行政視察を7件受け入れ85名来庁 ・行政視察申込書フォーマットの作成

成果	課題
・中国・仏国・米国・韓国の姉妹都市・交流都市・交流意向書締結都市との交流を通じ、相互理解が進み、友好関係を深めることができた。特に、ケンブリッジ市やアーバイン市を訪問し、交流の活性化につなげることができた。	・相互訪問以外にも交流を継続していく効果的な方法を見つける必要がある。 ・増加する行政視察依頼への対応業務の負担が大きく、業務改善が必要となっている。

改善目標（ R02年度にむけて）

・姉妹都市・友好都市担当者と緊密な連絡を取り合い、実施可能な交流手段がないか模索する。
・行政視察受入について、令和元年に導入したフォーマットを活用し、業務の改善を図る。

指標の推移

1	指標名	姉妹都市・友好都市交流事業の参加者数　（　人　）						活動指標
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	50.0	60.0	60.0	60.0	60.0	90.0	90.0
	実　績	53.0	16.0	68.0	61.0	86.0	108.0	0.0
	指標の概要	短編映画祭参加者2名、視察訪問18名（深セン市5名、ケンブリッジ市9名、アーバイン市4名）、視察受入88名（深セン市13名、ケンブリッジ市21名、テジョン市54名）						
2	指標名	（　）						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目				平成30年度	令和 1年度	令和 2年度	令和 3年度
				(決算)	(決算)	(当初)	(当初)
財源内訳	国庫支出金		(千円)	0	0	0	0
	県支出金		(千円)	0	0	0	0
	地方債		(千円)	0	0	0	0
	その他		(千円)	0	0	0	0
	一般財源		(千円)	1,390	5,780	4,177	0
事業費計			(千円)	1,390	5,780	4,177	0
人件費内訳	正職員	従事割合	(人)	1.13	1.00		
		時間外勤務	(時間)	90.00	138.70		
	臨時職員等		(有無)	無	無		
人件費			(千円)	8,199	7,125		
事業コスト			(千円)	9,589	12,905		

R02年度当初積算根拠	【報償金】記念行事協力者謝礼：姉妹都市交流時日本文化体験等協力者謝礼50,000円×3回=150,000円、仏グルノーブル市DIVERSITIES出演謝礼50,000円×4人=200,000円【費用弁償】深セン市訪問時通訳同行者：航空運賃74,000円＋（宿泊費11,600円×4泊）=120,400円【特別旅費】深セン市訪問特別職：航空運賃214,000円＋（宿泊費13,500円×4泊）×2人=536,00円、深セン市訪問随行者：航空運賃74,000円＋（宿泊費11,600円×4泊）×3人=361,200円、旅費雑費110,000円【国際親善記念品】110,000円【食糧費】親善使節団来訪賄：660,000円、深セン市訪問団来訪時賄：550,000円、姉妹都市等視察時賄：100,000円【通信運搬費】在外公館への市ＰＲ工芸品等郵送料：80,000円、国際電話用プリペイドカード購入費：9,000円、深セン市渡航者保険料(5日間)：6,500円×6人=39,000円【委託料】国際交流用記念品制作委託料：5,000円×50セット×1.10=275,000円【使用料】姉妹都市訪問団送迎時空港駐車場使用料：3,150円×6回=18,900円【賃借料】姉妹都市訪問団来訪時送迎用バス賃借料：380,240×2回=760,480円、深セン訪問時Wi-Fiルーター賃借料：1,330円×5日×5人×1.10=36,575円 【入場料】姉妹都市等訪問団視察受入時の施設入場料：1,000円×10人×4回=40,000円

予算の方向性	理由	
縮小		米国姉妹都市の訪問を行わないため、特別旅費等が大幅に減額

方向性

市民ニーズ 市民ニーズと今後の見込み	4	十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
進捗状況 事業が計画的に進んでいるか	4	計画通りに進めることができた。
市の関与 行政が関与する必要性について	2	今後も市が実施するほうがよい。
優先度 事業の優先度はどうか	2	継続して実施する必要がある。

令和元年度　事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	158　多文化共生推進事業					
戦略プラン	Ⅰ	4	3	国際化の推進	担当部課係名	市民部国際交流室
総合戦略	Ⅲ	1	(6)	国際化の推進		
					新規・継続	継続
					事業分類	任意的事務
予算科目	01-030110-19	国際化の推進に要する経費			市民参加	■　共有、理解
要求区分		事業期間				□　企画・立案、計画
個別計画	つくば市グローバル化基本指針					□　実行
						□　評価・検証
根拠法令					事業体制	補助金（直接）
					市長公約	

概要

事業の目的	事業の概要
多様な国際交流や国際的な相互理解に基づく多文化共生を推進する事業を行う一般財団法人つくば市国際交流協会（以下「市国際交流協会」という。）の支援や関係団体との連携により、国際意識の啓発と多文化共生社会の形成に資する。	協会単独事業 ・外国人住民が日本語を話したり、日本文化に触れることができるイベントの開催 ・医療通訳ボランティアのスキルアップ研修の実施 市その他関係団体との連携事業 ・国籍を越えた市民交流を推進するためのイベント等の開催

評価

事業計画	活動実績
・つくば市国際交流協会ほか関係団体との連携事業 ・５月　国際交流フェアの開催 ・10月　つくばワールドフットサル2019の開催 ・通年　外国人のための相談室事業 医療通訳ボランティア育成・派遣 市国際交流協会会報のPR 多言語版ホームページの運用	・国際交流フェア開催（ブース28団体、日本語関連５団体、ステージ11団体）（5/11・12） ・つくばワールドフットサル2019開催（10/20） （参加者計315人、うち外国人数61人、外国人比率19.4%） ・外国人のための相談室（英語29件、日本語４件、計32件） ・医療通訳ボランティアの派遣（英語8件、中国語15件、スペイン語5件、ポルトガル語1件、計29件） ・職員向けに市国際交流協会会報を周知、事業PRを行った。

成果	課題
・国際交流フェアでは昨年度からブース出展団体を増やすことができ、昨年度に引き続き日本語ボランティアブースも出展することでＰＲを図ることができた。 ・つくばワールドフットサル2019は外国人向けの周知強化により、外国人参加者は増加し、英語を使った交流イベントやチーム戦以外の交流試合も実施できた。	・今年度から医療通訳ボランティアは協定を結んだ医療機関のみの派遣になったため、派遣件数が減少した。当室にも医療通訳ボランティアの派遣についての問合せがあり、制度の周知強化を図る必要がある。 ・つくばワールドフットサルは外国人児童の参加割合が少ないため、参加者を増やすさらなる取組が必要である。

改善目標（ R02年度にむけて）

・つくば市国際交流協会事業の認知度を向上させるため、広報つくばや外国語広報紙などで積極的に周知を図る。
・医療通訳ボランティアについては、協定を結ぶ医療機関を増やすための話合いや周知を進めていく。
・つくばワールドフットサルの外国人児童の参加者数増加のため、大会日程が決定次第、インターナショナルスクール等に周知を行い、参加者の確保を図る。

指標の推移

1	指標名	事業の実施数				（　事業　）		活動指標
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	15.0	16.0	16.0	17.0	17.0	17.0	17.0
	実　績	15.0	17.0	26.0	17.0	16.0	17.0	0.0
	指標の概要	市及び市国際交流協会が実施している多文化共生に関する事業数（市内国際交流活動のみ）						
2	指標名					（　　）		
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	指標の概要							
3	指標名					( )		
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名					( )		
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名					( )		
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目				平成30年度	令和 1年度	令和 2年度	令和 3年度
				(決算)	(決算)	(当初)	(当初)
財源内訳	国庫支出金		(千円)	0	0	0	0
	県支出金		(千円)	0	0	0	0
	地方債		(千円)	0	0	0	0
	その他		(千円)	0	0	0	0
	一般財源		(千円)	35,071	31,438	35,632	0
事業費計			(千円)	35,071	31,438	35,632	0
人件費内訳	正職員	従事割合	(人)	1.12	1.00		
		時間外勤務	(時間)	255.00	252.40		
	臨時職員等		(有無)	無	無		
人件費			(千円)	8,537	7,405		
事業コスト			(千円)	43,608	38,843		

R02年度当初積算根拠

【報償金】講師謝礼：12,000円、通訳翻訳謝礼：国際交流事業通訳・翻訳謝礼30,000円、
多言語版ＨＰ記事翻訳謝礼120,000円、
グローバル化基本指針策定懇話会謝礼10,000円×20人×1回=200,000円
【旅費】普通旅費（会議・研修への参加）：4,000円×2人×6回=48,000円
【需用費】消耗品費：事務用消耗品50,000円、図書11,660円、アンケート回答記念品：99,000円
【印刷製本費】My City Tsukuba（英）印刷代583,000円
【手数料】通訳者派遣手数料1,200円×5回=6,000円
【委託料】ホームページ保守管理委託料308,000円
【負担金】茨城県日中友好協会負担金10,000円、つくば日中友好協会負担金10,000円、
国際交流事業負担金150,000円
【補助金】（一財）つくば市国際交流協会運営費補助金34,000,000円

予算の方向性	理由	主に印刷製本費やグローバル化基本指針の関連予算によって増額した。
拡充		

方向性

市民ニーズ 市民ニーズと今後の見込み	5	十分に高く、今後も増加が見込まれる。
進捗状況 事業が計画的に進んでいるか	4	計画通りに進めることができた。
市の関与 行政が関与する必要性について	2	今後も市が実施するほうがよい。
優先度 事業の優先度はどうか	2	継続して実施する必要がある。

令和元年度　事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	159　国際交流員・留学生交流員事業					
戦略プラン	Ⅰ	4	3	国際化の推進	担当部課係名	市民部国際交流室
総合戦略	Ⅲ	1	(6)	国際化の推進		
					新規・継続	継続
					事業分類	任意的事務
予算科目	01-030110-19	国際化の推進に要する経費			市民参加	■　共有、理解
要求区分		事業期間				□　企画・立案、計画
個別計画	つくば市グローバル化基本指針					□　実行
						□　評価・検証
根拠法令					事業体制	職員のみ
					市長公約	

概要

事業の目的	事業の概要
外国人が生活する上で、言語や社会制度の違いから生じる不便・不安を軽減するとともに、日本人市民の国際理解を深め国際社会適応力の育成を図る。	・来庁した外国人の通訳及び案内を行う。 ・市が発行する文書や冊子等の翻訳を行う。 ・市が携わる、国際交流事業に係る調整及び通訳・翻訳を行う。 ・留学生交流員を委嘱し、８か国語の外国語広報紙を発行する。 ・青少年の国際感覚の醸成のため国際理解講座を実施する。

評価

事業計画	活動実績
９月　外国人受入環境整備交付金を活用した一元的相談窓口の設置 下半期　国際理解講座の実施 通年　来庁した外国人の通訳及び案内 市が発信する文書や冊子等の翻訳 市が携わる国際交流事業に係る調整及び通訳・翻訳 留学生交流員を委嘱し、８か国語の外国語広報紙を発行	・令和元年９月に外国人相談窓口設置。相談件数337件（英243件、中53件、ポル2件、スペ2件、ベト9件、日11件、その他17件） ・国際理解講座の実施（市内11校、生徒・児童計1069人、36講座） ・来庁した外国人の通訳及び案内の件数（英語316件、中国語58件） ・翻訳依頼件数：英語127件/中国語17件 ・８か国語の外国語広報紙を11,762部発行（全言語の合計）
成果	**課題**
・外国人相談窓口の設置に伴い、通訳アプリを導入したことで10言語での窓口対応が可能になった。 ・国際理解講座の受講人数は、概ね例年の水準を維持し、ヘイトスピーチ抑止に向けた啓発についても実施できた。 ・英語の翻訳は昨年度の約２倍程度となり、庁内の案内や文書に関して英語表記の推進に寄与することができた。	・外国人相談窓口を開設したが、英語及び中国語以外の言語の相談件数が少ないことから、更なる周知が必要である。 ・翻訳件数が昨年度の２倍程度となり、納期限の調整等が発生した。また、災害時の多言語HP作成にあたり翻訳時間の短縮及び情報公開の速度が課題となっている。

改善目標（ R02年度にむけて）

・令和元年９月から開設した外国人相談窓口について、認知度向上のため、外国語広報紙での周知や多言語ホームページへの掲載、チラシ配布等により、周知強化を図る。
・英語の翻訳依頼の急激な増加に伴い、国際交流員の勤務時間を増やし、体制の強化を図る。

指標の推移

1	指標名	通訳対応件数及び外国人相談窓口相談件数（　件　）						活動指標
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	250.0	350.0	350.0	350.0	350.0	350.0	350.0
	実　績	512.0	517.0	571.0	734.0	776.0	711.0	0.0
	指標の概要	国際交流員（英）95件、国際交流員（中）97件、職員・通訳アプリ519件						

2	指標名	（　）						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	指標の概要							
3	指標名				( )			
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名				( )			
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名				( )			
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目				平成30年度	令和 1年度	令和 2年度	令和 3年度
				(決算)	(決算)	(当初)	(当初)
財源内訳	国庫支出金		(千円)	0	0	0	0
	県支出金		(千円)	0	0	0	0
	地方債		(千円)	0	0	0	0
	その他		(千円)	0	0	0	0
	一般財源		(千円)	4,955	6,380	8,275	0
事業費計			(千円)	4,955	6,380	8,275	0
人件費内訳	正職員	従事割合	(人)	1.13	1.00		
		時間外勤務	(時間)	75.00	60.20		
	臨時職員等		(有無)	無	無		
人件費			(千円)	8,162	6,932		
事業コスト			(千円)	13,117	13,312		

R02年度当初積算根拠

【報酬】国際交流員報酬：（英語週35時間）時給1,344円×7時間×243日=2,286,144円、
（中国語週29時間）時給1,344円×6時間×243日=1,959,552円、
時間外勤務手当：1,680円×38時間×2人=127,680円
【報償金】特別職プレゼン原稿・新書等翻訳謝礼656,000円
【職員手当等】国際交流員期末手当:（英語）272,832円、（中国語）233,856円
【報償金】留学生交流員謝礼：1,324,000円、通訳翻訳謝礼：280,000円
【費用弁償】国際交流員通勤手当：223,560円
【印刷製本費】チラシ印刷代：126,500円、外国語版広報紙印刷代：250,800円
【行事用食材費】国際理解講座用食材費：3,850円
【通信運搬費】郵便料：9,936円、プロバイダ使用料：5,000円×12月=60,000円
【使用料】つくば市外国人相談窓口用通訳アプリ使用料330,000円
【備品購入費】国際交流員（英語）用パソコン：292,237円

予算の方向性	理由	
拡充		令和２年度から国際交流員が会計年度任用職員になるため、新たに時間外勤務手当や期末手当等が発生した。また、令和元年９月から開設したつくば市外国人相談窓口に関する予算について、増額があった。

方向性

市民ニーズ 市民ニーズと今後の見込み	5	十分に高く、今後も増加が見込まれる。
進捗状況 事業が計画的に進んでいるか	4	計画通りに進めることができた。
市の関与 行政が関与する必要性について	2	今後も市が実施するほうがよい。
優先度 事業の優先度はどうか	2	継続して実施する必要がある。

令和元年度　事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

事務事業名	160　国際化教育支援事業					
戦略プラン	Ⅰ	4	3	国際化の推進	担当部課係名	市民部国際交流室
総合戦略	Ⅲ	1	(6)	国際化の推進		
					新規・継続	継続
					事業分類	任意的事務
予算科目	01-030110-19	国際化の推進に要する経費			市民参加	■　共有、理解
要求区分		事業期間	平成24年度～			□　企画・立案、計画
個別計画	つくば市グローバル化基本指針					□　実行
						□　評価・検証
根拠法令					事業体制	補助金（間接）
					市長公約	

概要

事業の目的	事業の概要
国際基準の認定を受けている市内の各種学校（日本において学校教育法に基づいて、「学校教育法の第1条に規定される学校」以外で、学校教育に類する教育を行うもので、所定の要件を満たす教育施設のこと）を支援することで、市の国際化教育の環境の充実を図るとともに、外国の優秀な研究者の招致を容易にする。	・国際バカロレア又はこれに準ずる国際基準の認定を受けた学校の当該教育プログラムに係る経費に対し、補助金を支出する。

評価

事業計画	活動実績
４月　国際化教育事業補助金交付要項の制定 通年　国際化教育事業補助金交付にかかる事務 市施設の優先予約等の支援	・4/1　平成31年度国際化教育事業補助金交付要項制定 ・4/1　平成31年度つくば市国際化教育事業補助金交付決定（4,000千円） ・4/1、11/13　スポーツ施設の先行予約および使用料の減免申請 ・4/11　国際バカロレア卒業試験会場の手配支援 ・3/12　平成31年度つくば市国際化教育事業費補助金交付額確定（4,000千円）

成果	課題
国際バカロレア又はこれに準ずる国際基準の教育プログラム事業の継続に資することができ、市の国際化教育の環境の充実を図ることに寄与した。また、市施設の優先予約により円滑な学校行事の運営に資することができた。	補助対象経費を国際バカロレア又はこれに準ずる国際基準の教育プログラム事業の認定に要する費用に限定するなど見直しを図ったが、さらなる適正化を図る必要がある。

改善目標（ R02年度にむけて）

補助金交付団体に補助のニーズをヒアリングし、さらなる適正化を図る。

指標の推移

1	指標名	補助対象学校の児童・生徒数				（　人　）		活動指標
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	120.0	130.0	150.0	160.0	170.0	180.0	190.0
	実　績	115.0	143.0	161.0	194.0	239.0	263.0	0.0
	指標の概要	令和元年５月１日確定値						
2	指標名					（　　）		
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実　績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目				平成30年度	令和 1年度	令和 2年度	令和 3年度
				(決算)	(決算)	(当初)	(当初)
財源内訳	国庫支出金		(千円)	0	0	0	0
	県支出金		(千円)	0	0	0	0
	地方債		(千円)	0	0	0	0
	その他		(千円)	0	0	0	0
	一般財源		(千円)	4,000	4,000	4,000	0
事業費計			(千円)	4,000	4,000	4,000	0
人件費内訳	正職員	従事割合	(人)	1.12	1.00		
		時間外勤務	(時間)	15.00	5.00		
	臨時職員等		(有無)	無	無		
人件費			(千円)	7,942	6,796		
事業コスト			(千円)	11,942	10,796		

R02年度当初積算根拠

国際バカロレア又はこれに準ずる国際基準の教育プログラム事業の認定に要する費用は、（A）毎年支出を生ずるもの、（B）５年に一度支出を生ずるもの、（C）単年度のみ支出を生じるものに分類できる。
固定的な補助対象経費（AおよびB）には「登録料（A）」、「学外研修参加費用等（A）」、「評価訪問経費（B）」がある。
「登録料」　2,937,201円
「学外研修参加費用等」　977,376円
「訪問経費」　574,800円＝2,874,000円/5年
合計　4,525,377円
上記費用は、シンガポールドル、ユーロ、米ドル等の為替変動の影響を受ける。

予算の方向性	理由	
維持		

方向性

市民ニーズ 市民ニーズと今後の見込み	4	十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
進捗状況 事業が計画的に進んでいるか	5	当初の計画を上回る進捗で事業を実施することができた。
市の関与 行政が関与する必要性について	2	今後も市が実施するほうがよい。
優先度 事業の優先度はどうか	3	他の事業に優先して進める必要がある。